

多摩地域史研究会会報

第166号

2025（令和7）年5月20日発行

E-mail: tamatiken@yahoo.co.jp

（ホームページ現在休止中）

【第124回例会報告】 今回の例会は、4月6日（日）小平市の小川寺から青梅街道沿いの文化財を探訪しました。参加者は講師の小川望会員ほか20名。今回は参加記を調布飛行場の掩体壕を保存する会の金井安子さんにお願いしました。

「小平の文化財と大東亜戦争」参加記

金井安子

（調布飛行場の掩体壕を保存する会）

「小平の文化財と大東亜戦争」を巡る見学会は、小平市を通る主要な交通路である青梅街道を挟んで対峙する小川寺（しょうせんじ）と小平神明宮（しんめいぐう）から始まりました。

【金属供出から一転、買い戻された梵鐘】

醫王山小川寺は、明暦年間（1655-1658）に、武蔵国多摩郡小川村の名主小川九郎兵衛を開基として創建された臨済宗の寺院です。小川寺では、小平市の指定文化財（有形文化財）2件を見学しました。

1件目は、貞享3（1686）年に鑄造され、寺の檀家によって寄進された梵鐘で、その内側を覗



貞享3年鑄造の梵鐘の内側を覗くと「小平町小川寺」の文字が

くと「小平町小川寺」の文字と金額を表すと思われる数字を読み取ることができます。兵器の生産に必要な金属資源の不足を補うために、金属類回収令（昭和16年制定、昭和18年改正）によって供出され、その後買い戻されたことをうかがわせるそうです。小平は、昭和19（1944）年2月11日に町制施行しているので、それ以降に供出されたものになるのでしょうか。

ふだん、寺院の梵鐘は、銘文にどんなことが書かれているのかを見ることはあっても、その内側はあまり気に留めることはありません。しかし、目の付けどころによっては、意外な歴史を知ることができるのだとわかりました。

2件目は、小川村の開発を主導した小川九郎兵衛の墓塔で、寺の墓地の入口近くにあります。多摩地域の旧家は、武田氏や北条氏の家臣の末裔が土着したという伝承を持つ家が多いと聴きますが、元和8（1622）年に多摩郡岸村（現武蔵村山市）で生まれた九郎兵衛の祖先も、武蔵七党のうちの一党小川氏の流れを汲み、北条氏に仕え、その滅亡後は村山郷に土着したと伝えられます。九郎兵衛は、寛文9（1669）年に死去、49年後の享保3（1718）年に孫の小川弥一